



ガスでパツと明るくチョっといい未来
＝Eco-Friendlyな東京ガスをめざして＝



東京ガス株式会社
IR部長 並木 淳一

目次

- 事業概要 . . . P.3～9

会社紹介ビデオ

- 天然ガスの環境性による成長 . . . P.11～20
- キャッシュフローと利益計画 . . . P.21～26

事業概要

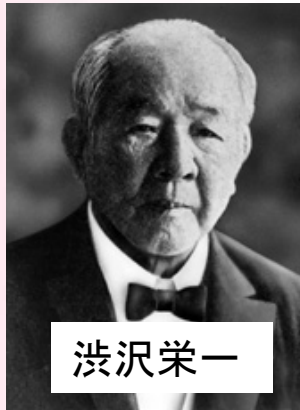


東京ガスのあゆみ



横浜ガス灯

～1885年～
創業



渋沢栄一

343件

～1945年～
ガス企業の統合



関東信越地区15社合併
供給エリアは一都八県に

1938年
100万件

～1969年～
液化天然ガス(LNG)
初輸入



1971年
400万件



アラスカLNG
売買調印式

～2007年～



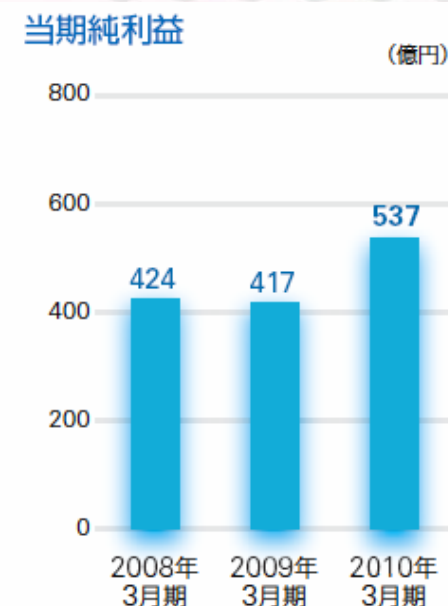
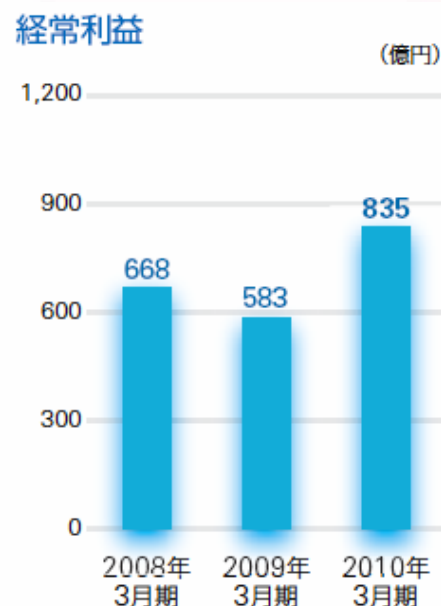
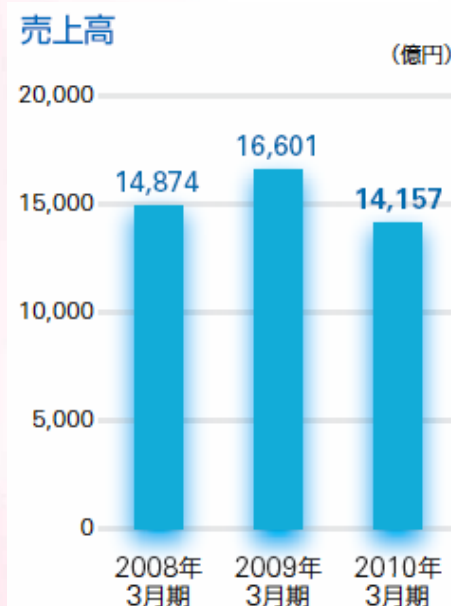
天然ガス転換プロジェクト

東京ガスのグループ概要と直近の業績

- ◆ 設立 1885年10月1日(お客さま数 343件)
- ◆ お客さま数 関東圏を中心とした1,064万件 ※09年度末
- ◆ 従業員 単体 7,540人、連結 15,539人 ※09年度末
- ◆ 資本金 1,418億円
- ◆ 経営理念 東京ガスグループは、天然ガスを中心とした「エネルギーフロンティア企業グループ」として、「快適な暮らしづくり」と「環境に優しい都市づくり」に貢献し、お客さま、株主の皆さま、社会から常に信頼を得て発展し続けていく。



代表取締役社長 岡本 毅



東京ガスの特色

☆ 安定性

- 景気に左右されない規制分野（お客さま件数約1千万件）
- 関東圏は今後も人口流入を見込む
- 日本全国の都市ガス販売量の43%を供給

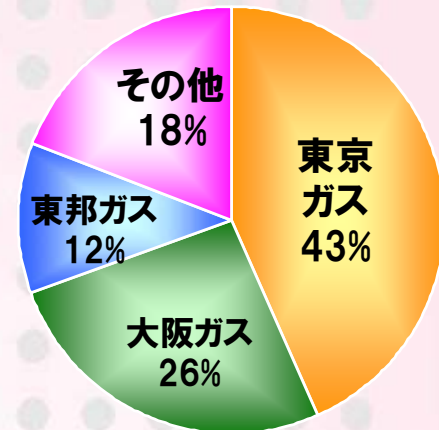
☆ 成長性

- 成長が期待できる自由化分野
- 環境に対する意識の高まり ⇒ 天然ガスの役割は拡大
- 恵まれた商圈 = 関東立地
(日本のGDPの39%を占める)

☆ 明瞭な株主配分方針

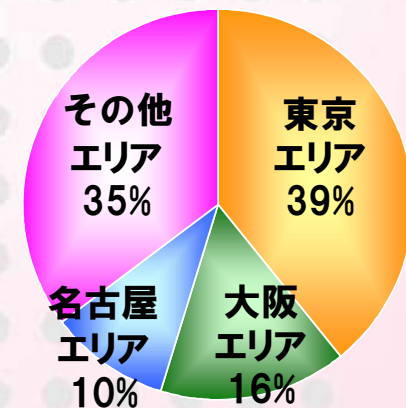
- 総分配性向60%と、確実な配当の実施

【全国都市ガス販売量】



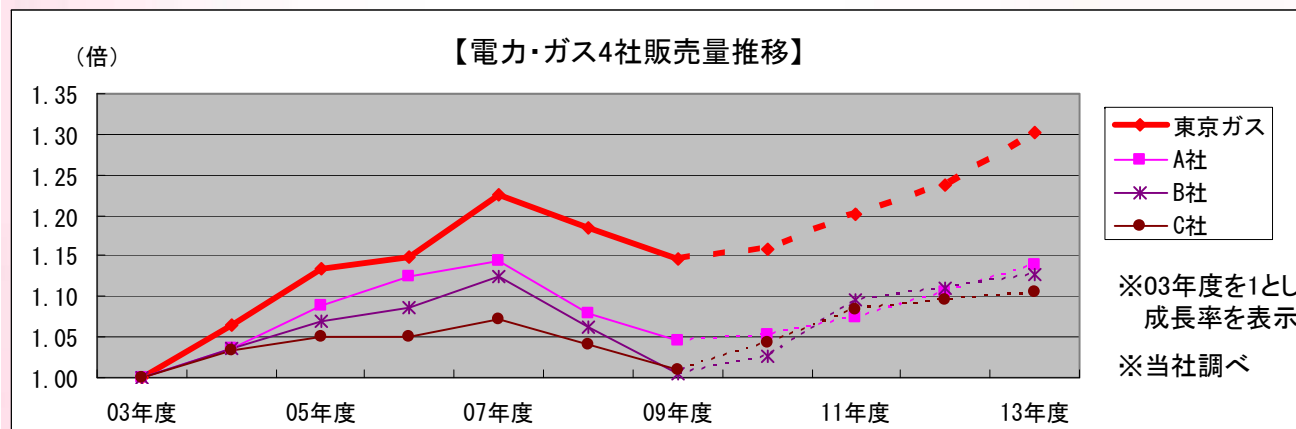
出典: 2009年度各社資料より
当社作成

【主要エリアの国内総生産（GDP）構成割合】



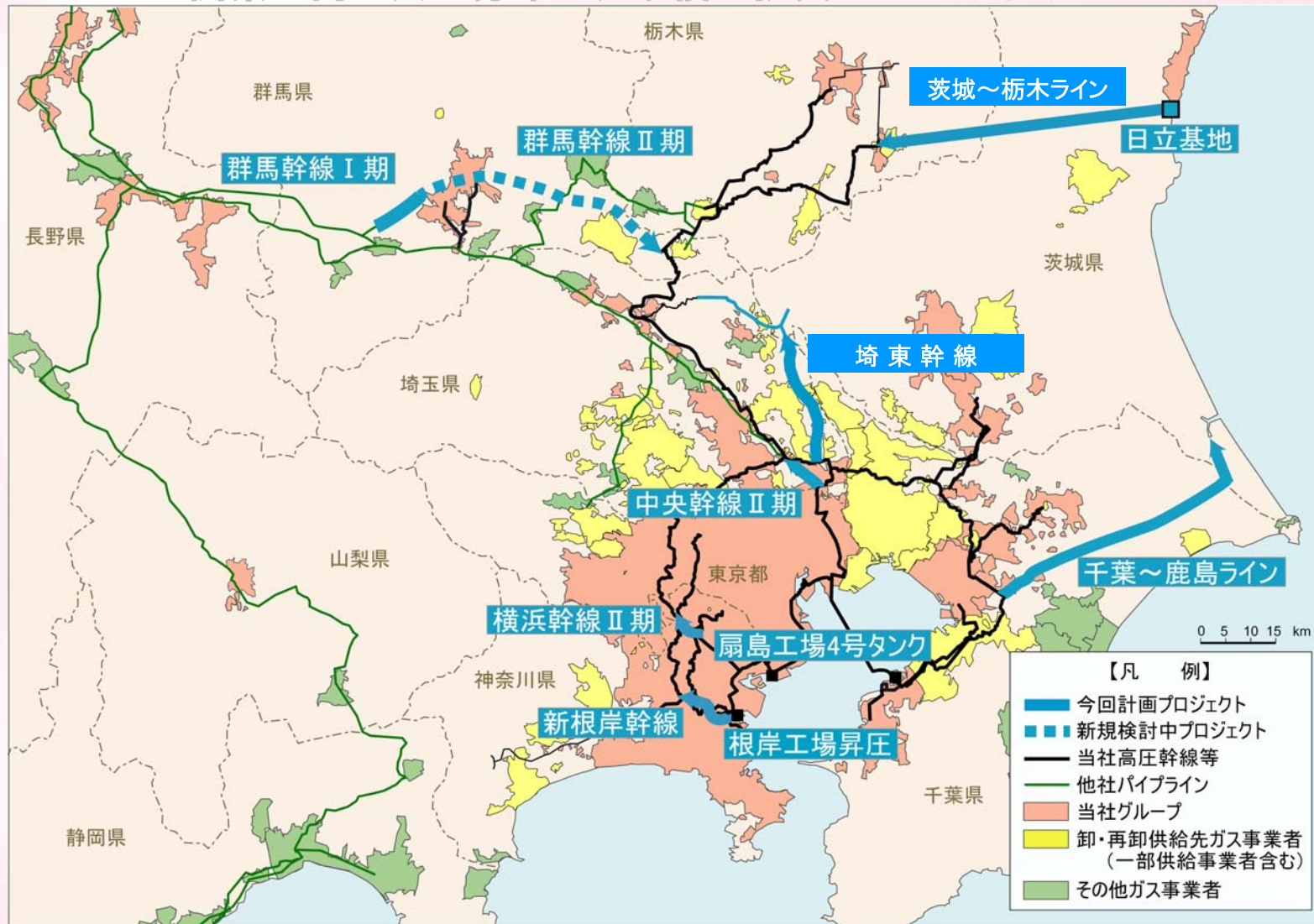
出典: 内閣府「国民経済関連
計算」2007年度版より
当社作成

【電力・ガス4社販売量推移】



東京ガスの供給エリア

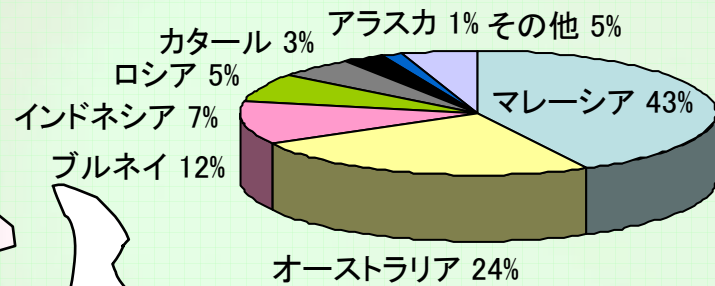
～関東一円に広く分布し、今後も拡大していきます～



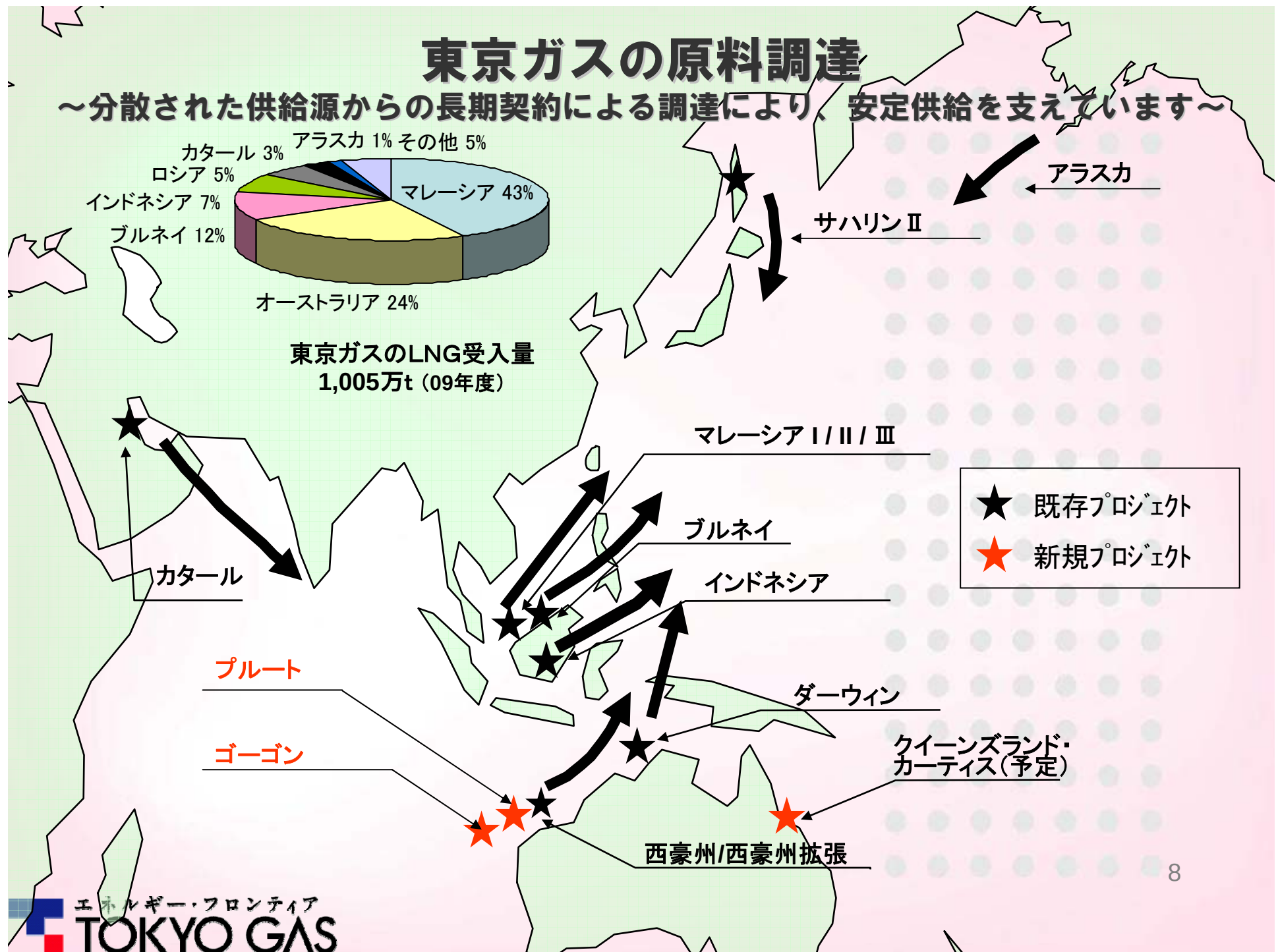
導管総延長 53,198km (個別)

東京ガスの原料調達

～分散された供給源からの長期契約による調達により、安定供給を支えています～



東京ガスのLNG受入量
1,005万t (09年度)



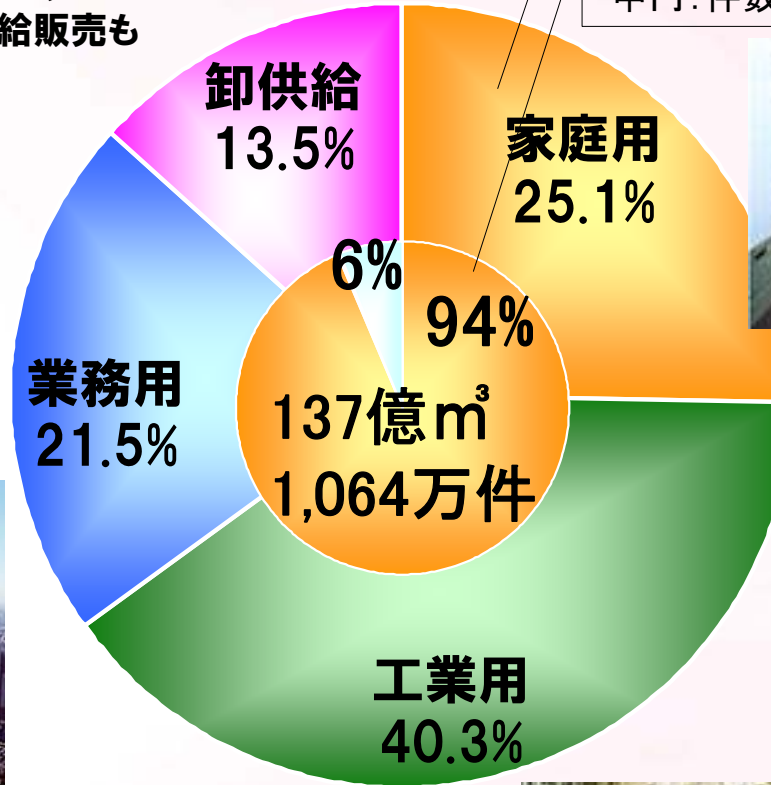
都市ガスの用途

～家庭用が安定性、工業用が成長性を担います～

地方の都市ガス事業者への
ローリー車などでの卸供給販売も



業務用では、ビル・ホテル・学校・
病院の空調、地域冷暖房等に



外円：販売量割合

※09年度末

中円：件数割合

家庭用では、
キッチン・床暖房・
浴室暖房乾燥機・
ミストサウナ等に



工業用では、鉄鋼・自動車・食品業界など、様々な業種の
工場のボイラー・コージェネレーション・発電用に

会社紹介ビデオ（株主総会用）

～低炭素社会の実現に向けた東京ガスグループの取組みについて～
をご覧ください。

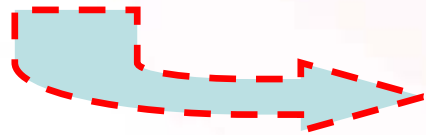


10

天然ガスの環境性による成長

天然ガスの環境優位性

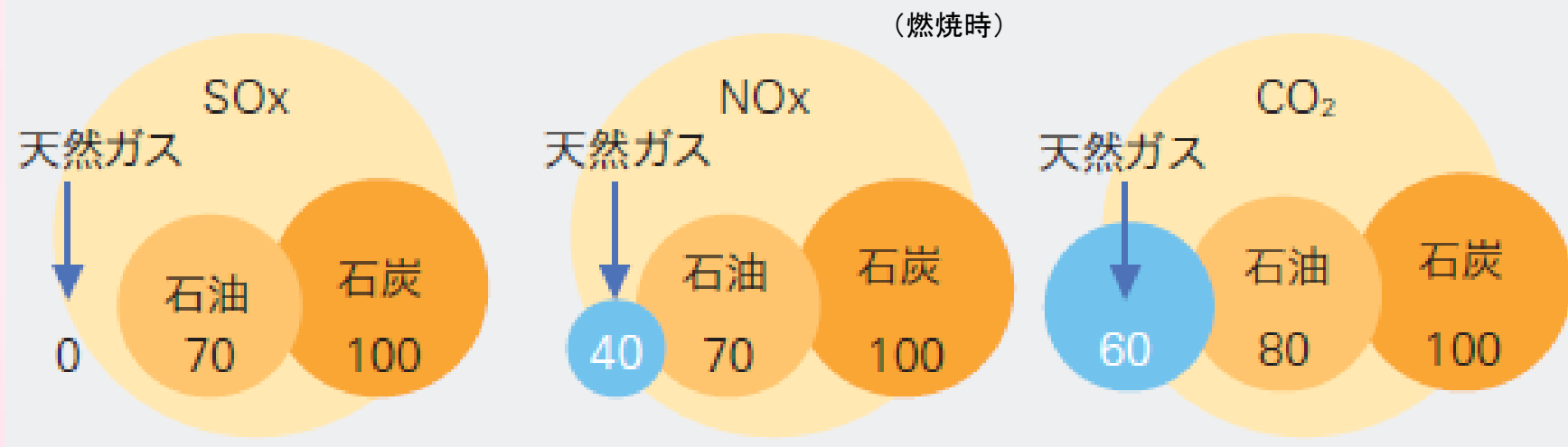
燃焼時のCO₂等排出量が化石燃料で最も少ない



環境にやさしいエネルギー

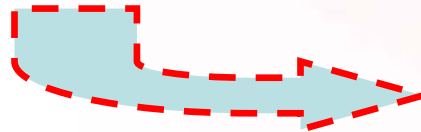
石炭を100とした場合の排出量比較

出典:「エネルギー白書
2009」資源エネルギー庁



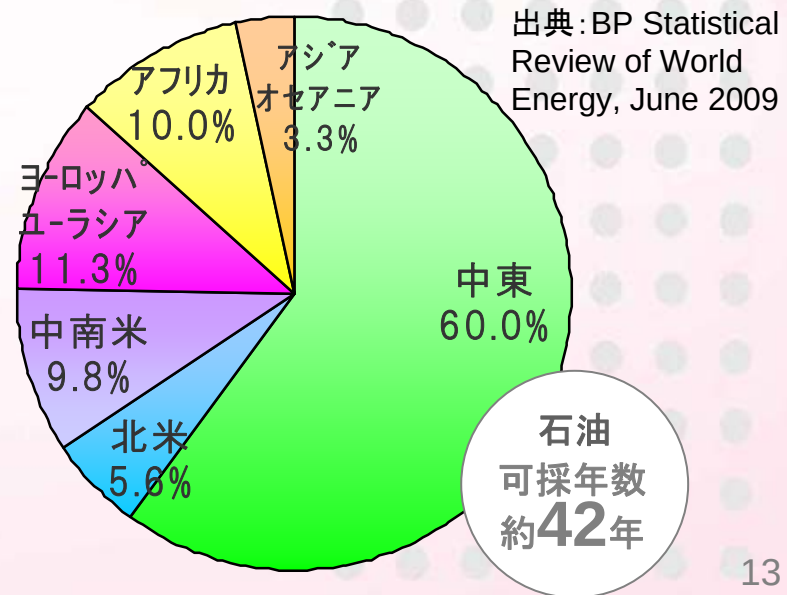
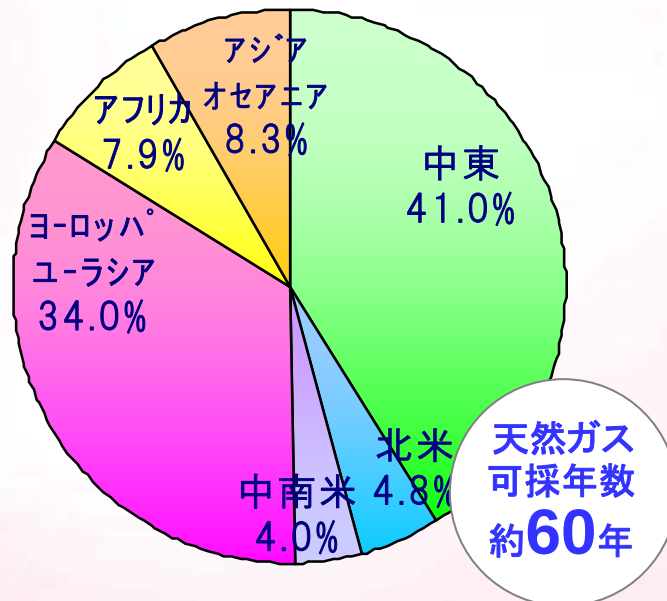
天然ガスの安定性

- ①世界各国に広く分布
- ②可採年数「60年」+ α



高い供給安定性

【天然ガスの地域別確認埋蔵量構成比(%)と可採年数(石油比較)】

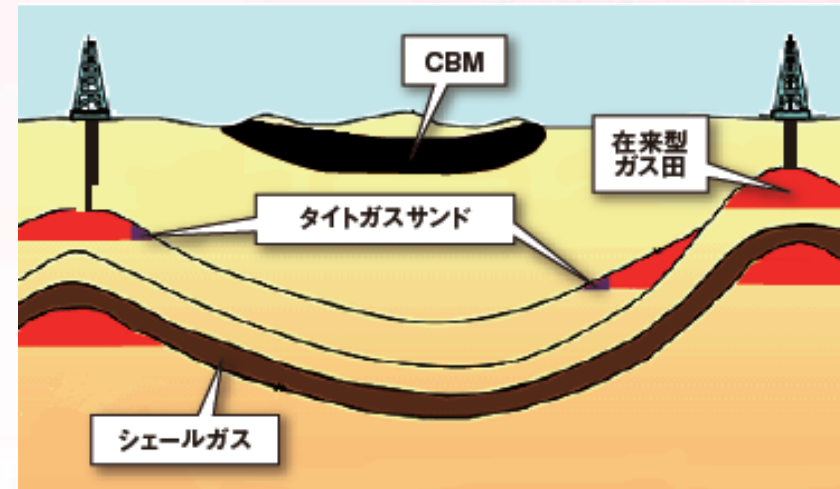


出典: BP Statistical Review of World Energy, June 2009

新しい天然ガス資源

～需要増により、さらなる開発が期待されます～

- コールベッドメタン
- シェールガス
- タイトサンドガス



出典:USGS資料を基にJOGMECIにて作成

→可採年数約200年

(従来型天然ガス可採年数60年を含む)

- メタンハイドレート(燃える氷)

→可採年数さらに100年!?



「エネルギー基本計画（経済産業省HPより抜粋）」

<基本的視点>

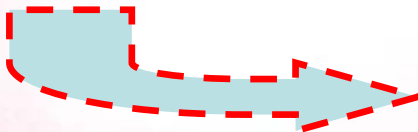
エネルギー政策の基本は、エネルギーの安定供給の確保、環境への適合、及びこれらを十分考慮した上での市場機能を活用した経済効率性の実現を図ること

<天然ガスの位置づけ>

上流権益獲得による安定供給確保や産業部門の燃料転換、コージェネレーション利用、燃料電池の技術開発の促進と内外への普及拡大など、天然ガスシフトを推進すべきである。

<具体的な目標>

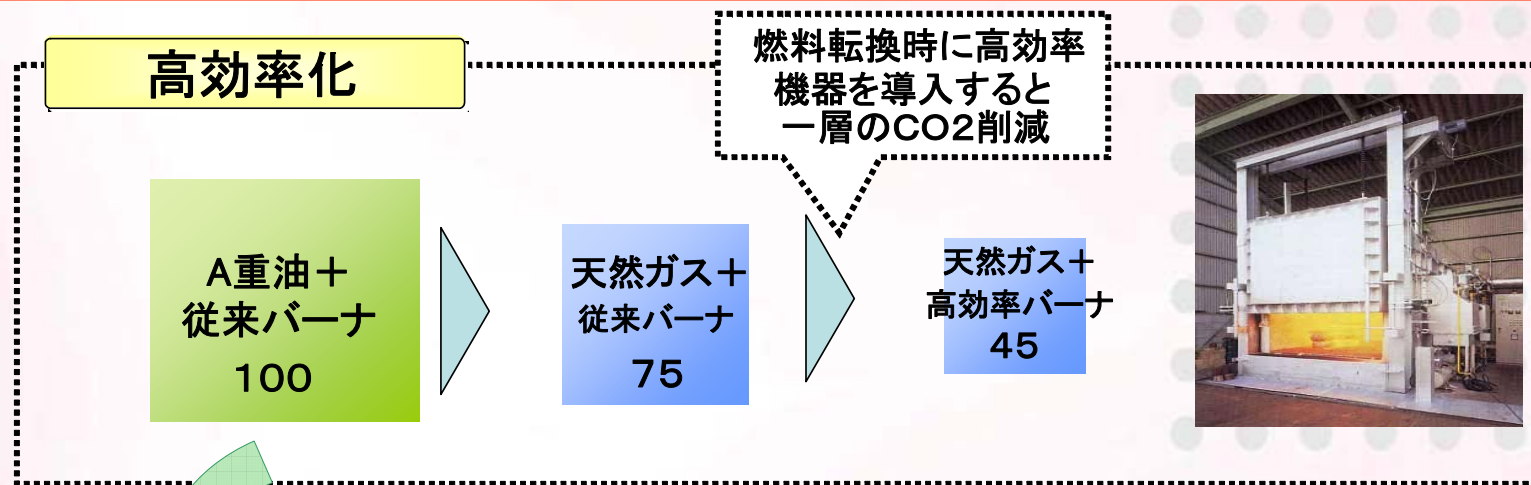
2030年までに燃料消費に占める天然ガス比率（現状約10%）の倍増を目指す。



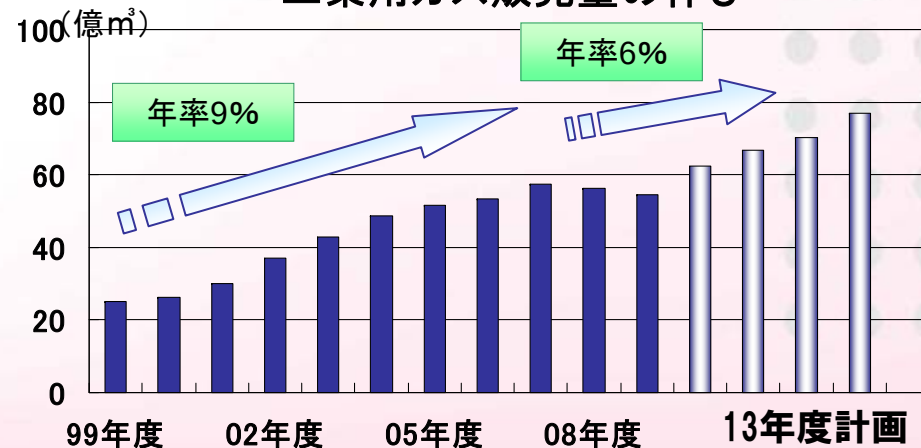
基幹エネルギーとしての天然ガスの役割増大

工業用需要の成長

- 利便性・燃焼効率の良さに加え、重油から天然ガスへの転換により**25～55%**のCO2削減が可能
- 京都議定書発効で環境性の高い天然ガスが注目され**工業用需要の燃料転換が増加**
2020年温室効果ガス25%削減(対90年比)の方針を受け、この傾向は続く見込み



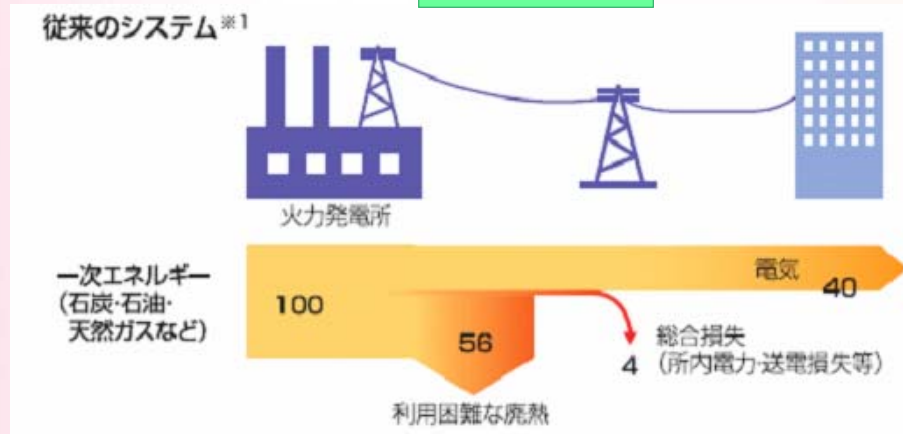
工業用ガス販売量の伸び



分散型電源システムの普及

分散型電源システムとは、需要地で個別に発電することによって、発電時に発生する熱も活用して、エネルギー効率の上昇を実現システムです。

集中型発電システム



分散型発電システム

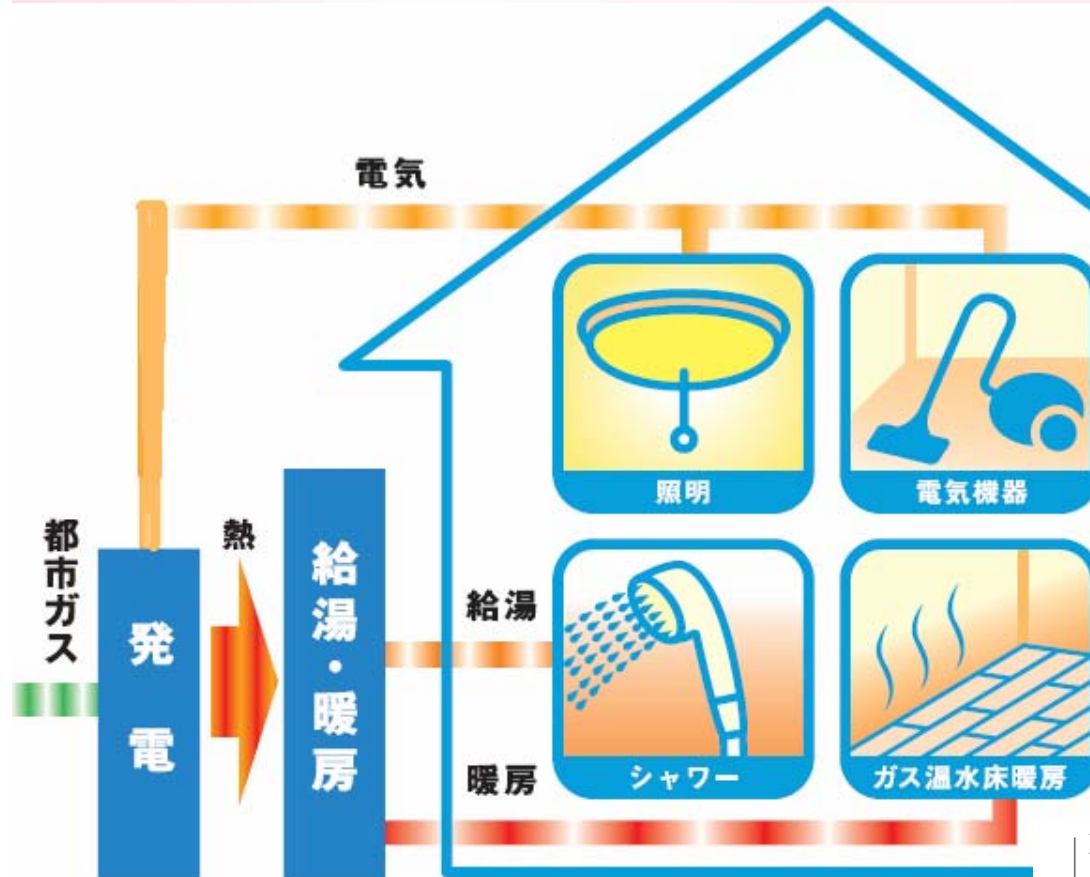


※1 LHV(低位発熱量:燃料を燃焼させた時の水蒸気の凝縮潜熱を含めない発熱量)基準。火力発電所の熱効率及び総合損失は、9電力会社および卸電気事業者の平成15年度運転実績(省エネ基準部会2005年9月)から算定

※2 天然ガスコージェネレーションシステムの効率はLHV(低位発熱量)基準での一例

* コージェネレーションとは熱と電気を同時に供給することができる熱電併給システム

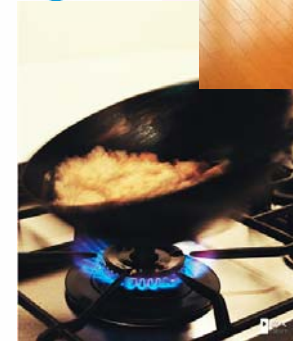
「エネファーム」で快適生活



自宅で発電し、その時に発生する熱でお湯をつくるエネファーム。



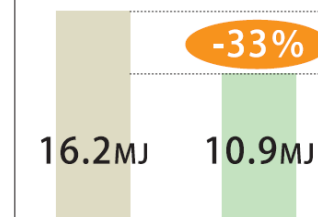
ミストサウナ浴や床暖房で快適！



お料理は高火力
& 安全センサー付最新ガスコンロでおいしく、快適！

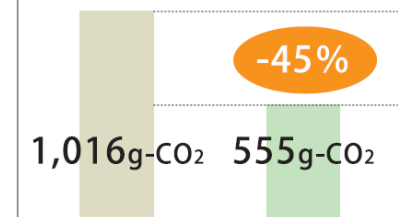
【従来システムとの比較】

1次エネルギー消費量



火力発電 + 従来給湯器
換算値=ガス:45MJ/m³ 電気:9.76MJ/kWh

CO₂排出量



火力発電 + 従来給湯器
換算値=ガス:2.29kg-CO₂/m³ 電気:0.69kg-CO₂/kWh

(発電量1kWh+熱回収量1.4kWhあたり)



エネファームは「エネルギー」と「ファーム＝農場」の造語
「水素と酸素から電気と熱をつくる」ことから
「自分のエネルギーは自分でつくる」という、今後の考え方を表現

将来エネルギーのあるべき姿 スマートエネルギーネットワーク

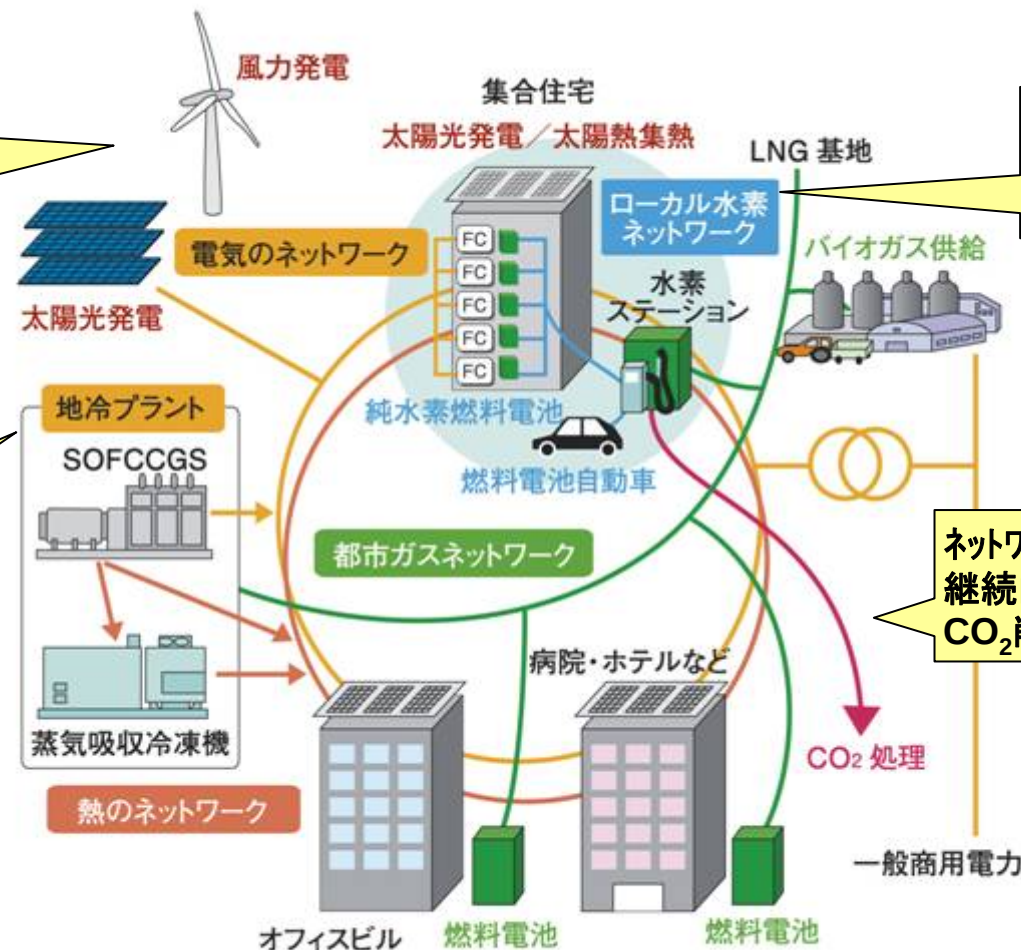
- 天然ガス等で補完しつつ、**再生可能・未利用エネルギーの大規模かつ安定的な導入を実現**
- 需要形態・変動パターンに合わせたガス、電力、熱（蒸気、温水、冷水）のベストミックス実現
- 分散型エネルギーシステムと大規模集中型供給システムとの最適マネジメント

エネルギーの地産地消の
拡大、選択の多様化が地
元経済に貢献

分散型エネルギーシ
ステムが災害等非常
時の地域の業務・生
活継続計画に貢献

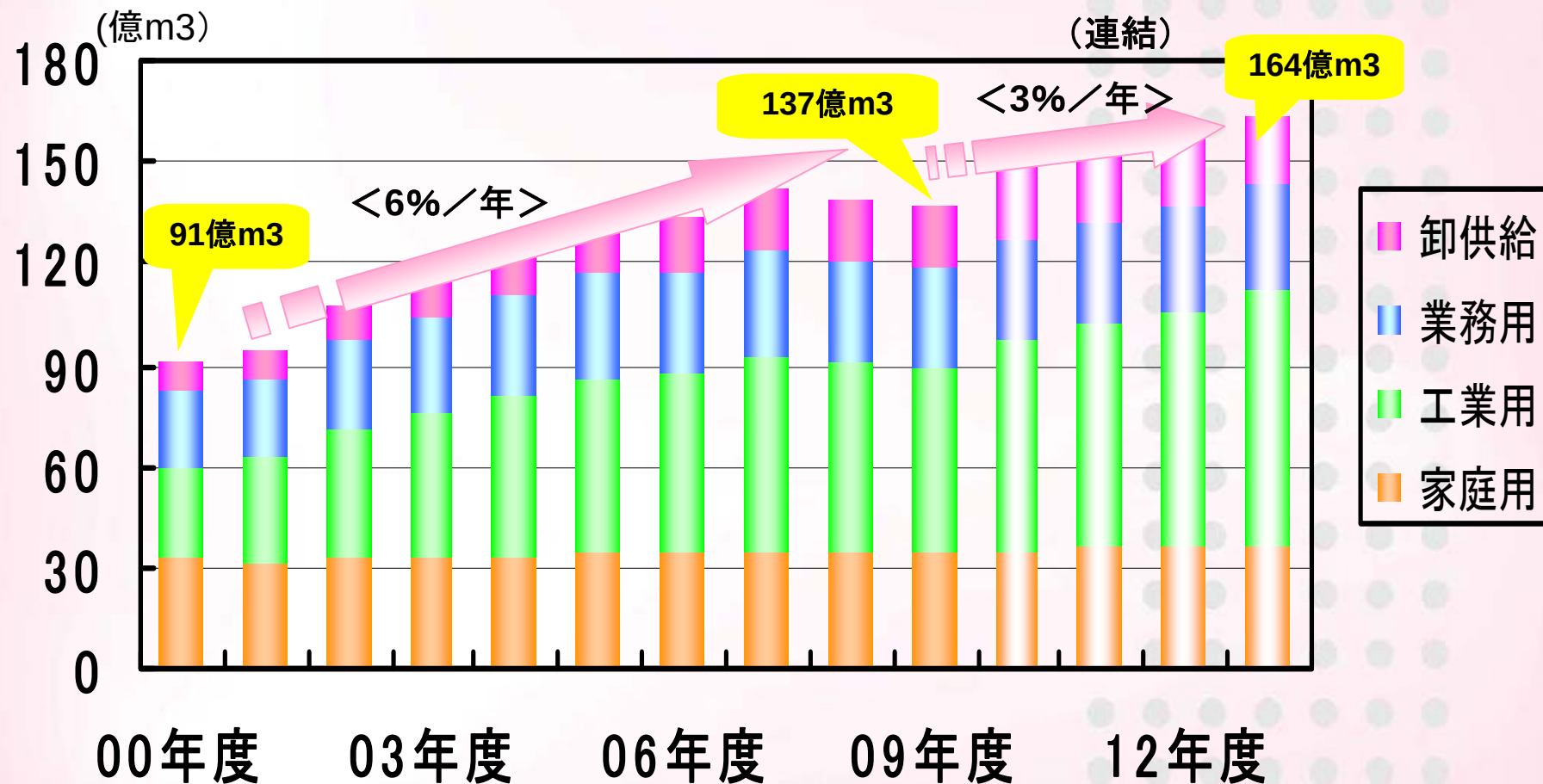
将来の技術革新
(水素供給等)にも
柔軟に対応

ネットワーク化により地域の
継続的・段階的な省エネ、
CO₂削減に貢献



環境貢献で実現する今後の成長

～環境政策を追い風に、販売量を増加させていきます～



キャッシュフローと利益計画

持続的成長によるキャッシュ・フロー創出

～キャッシュ・フローを重視した経営を着実に遂行しています～

直近の推移

	総売上高	当期 純利益	営業 キャッシュフロー	ROA	ROE
08年度 実績	1兆6,601億円	417億円	1,827億円	2.4%	5.4%
09年度 実績	1兆4,157億円	537億円	1,998億円	3.0%	6.8%
10年度 見通し	1兆5,510億円	650億円	2,180億円	3.5%	7.9%

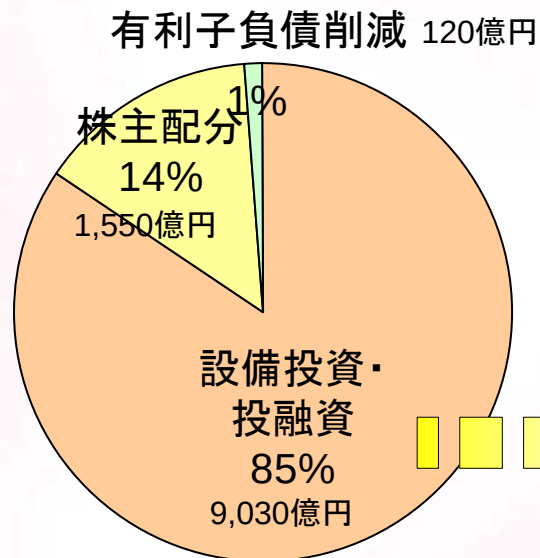
2013年目標(2009年策定中期経営計画による)

13年度 計画	1兆7,200億円	—	5カ年計 1兆700億円	3.7%	7.7%
------------	-----------	---	-----------------	------	------

キャッシュ・フローの配分について

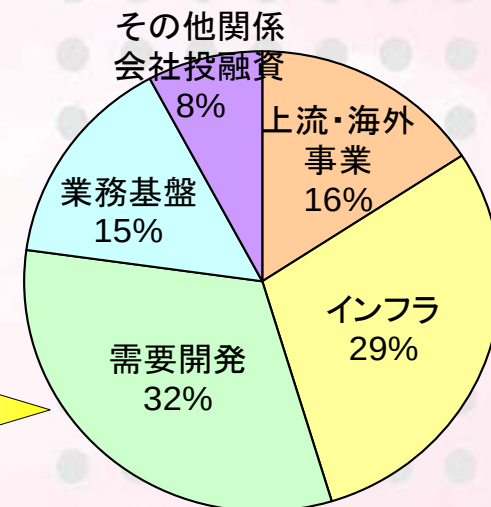
- 中長期的成長を実現するための事業基盤強化への戦略的キャッシュ・フロー配分

09～13年度中期経営計画
キャッシュ・フロー 5ヶ年合計: 約10,700億円の配分先



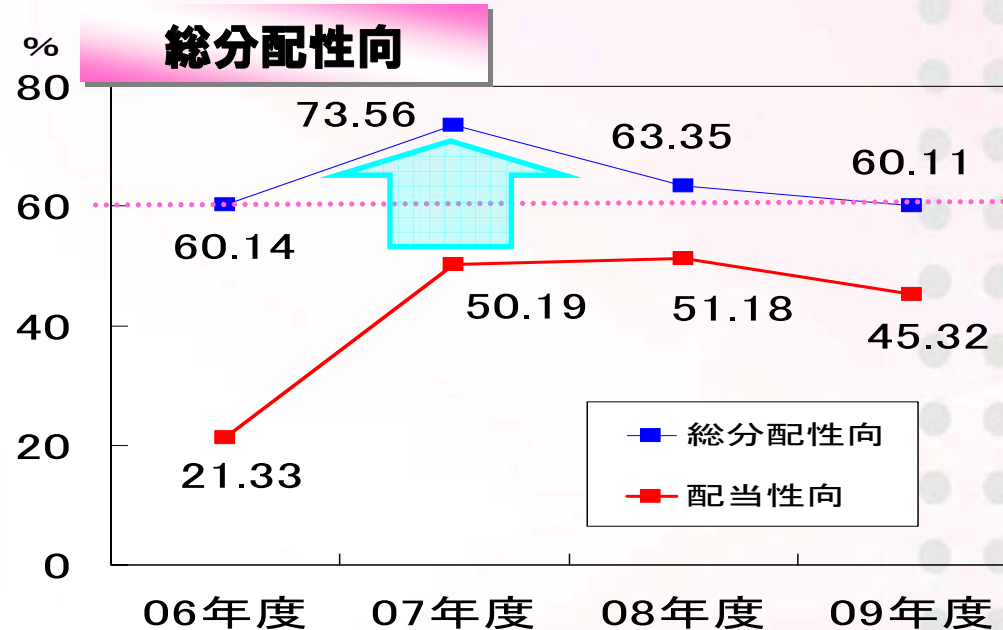
2010年代後半に向け
安定供給基盤・需要
を伸ばすための広域
インフラ拡充

【設備投資・投融資の内訳】



株主さまへの還元① 総分配性向

- 株主さまへの配分方針
総分配性向※（配当＋自社株買い）を連結当期純利益の6割とする。



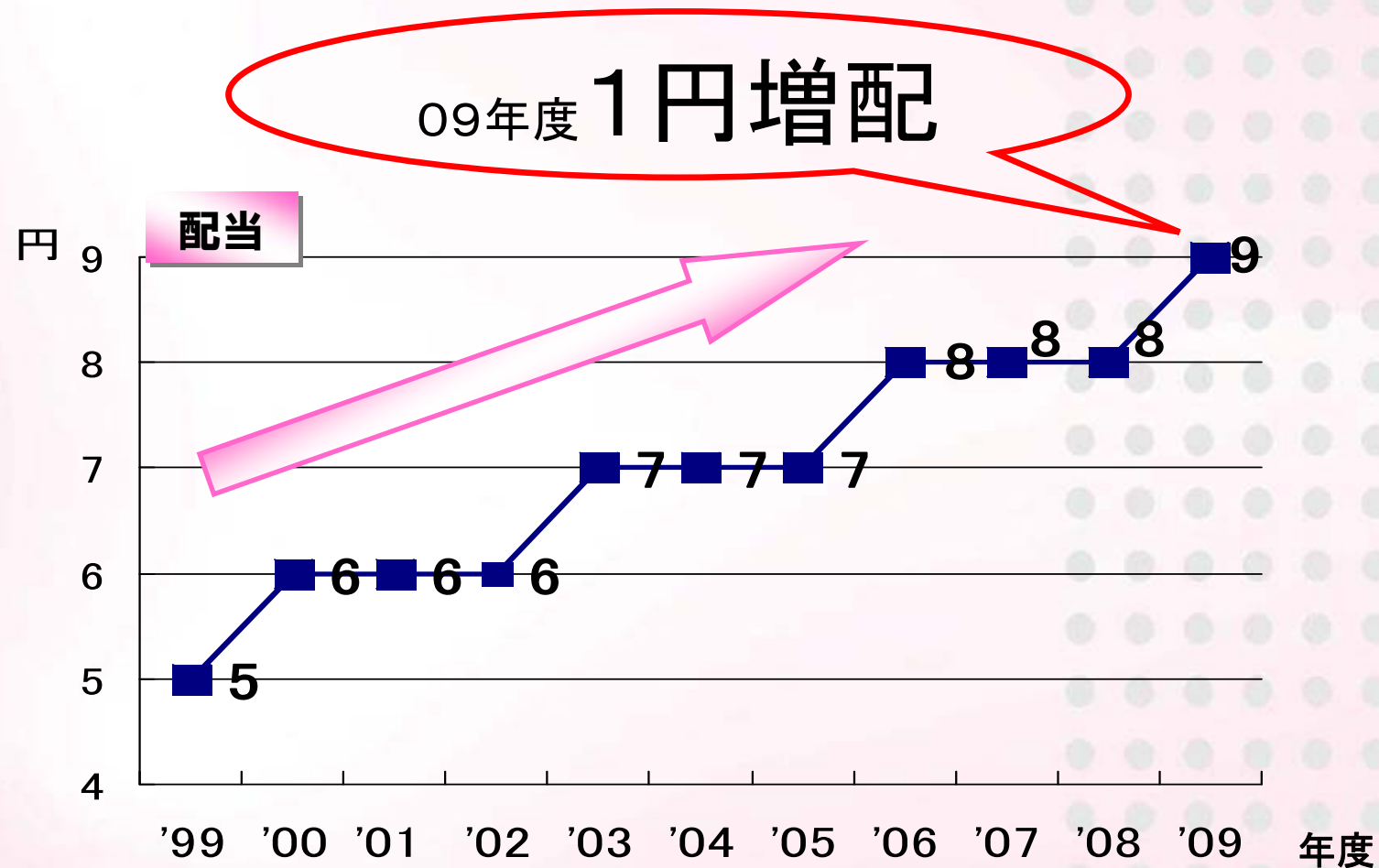
【※09年度の総分配性向】

総分配性向		09年度配当額	+	10年度自社株取得額	
60.1%		243億円		80億円	
(ターゲット：6割)	=	09年度当期純利益 537億円			

※ n年度総分配性向 = (n年度配当 + n+1年度自社株取得) ÷ n年度当期純利益 24

株主さまへの還元② 配当性向

- 株主さまへの配当方針
安定的かつ、長期的増配を目指す（現行9円/株）。



東京ガス株式情報と個人投資家向け情報発信

～様々な媒体で、情報提供しています～

＜株式情報＞

証券コード: 9531

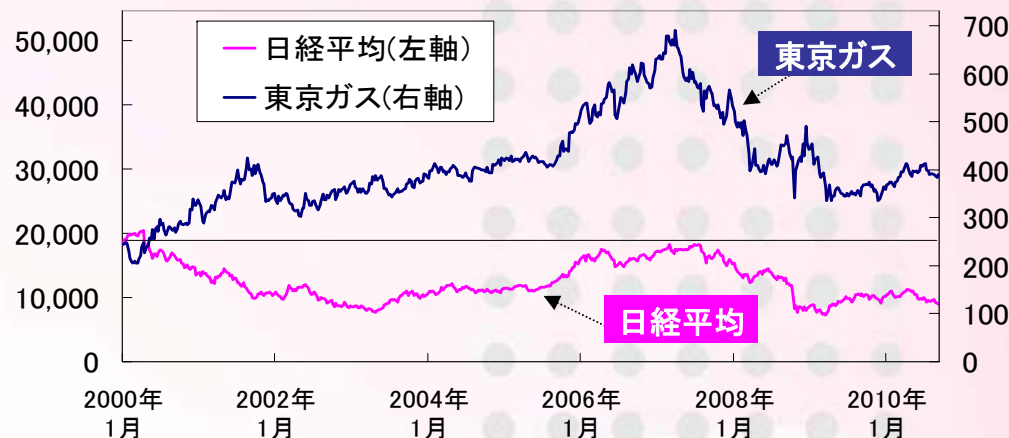
株価 : 396円 (9月1日終値)

年間配当金 : 9円/株

単元株 : 1,000株

決算期 : 3月末

＜00年を基準にした株価の動き(円)＞



東京ガスIRホームページはこちら

http://www.tokyo-gas.co.jp/IR/ir_j.html



株主の皆さまには
株主総会・株主見学会・
東京ガス通信の発行を通じ
て継続的な情報発信を
行っています。



東京ガスのニュースリリースを
いち早くお届けするニュース配信登録に
ぜひご登録ください！

**本日終了後、
ご質問をお受けいたします。**

さあ、一緒にどうぞ
「ガス・パッ・チョ！」



**今後とも東京ガスを
よろしくお願いいたします！**



本資料は情報提供のみを目的としたものであり、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。また、本資料に記載されている将来予測・業績予想は、現時点で入手可能な情報により当社が判断したもので、その正確性を保証するものではなく、今後予告無く変更されることがあります。

さまざまなリスク要因や不確定要素により、実際の業績や見通しは本資料の記述内容とは大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、原油価格・LNG価格の動向、気温の変動、円ドルの為替相場、ならびに急速な技術革新と規制緩和の進展への東京ガスの対応等があります。但し、業績に影響を及ぼす要素はこれらに限定されるものではありません。